

## 「神様の愛はどれぐらい？」

エフェソの信徒への手紙 3：14-21  
詩篇 139篇

2023年9月3日  
野村 友美 師

### <パウロの祈り>

先週、私たちの教会の大切な一員である方が、この地上での人生を走り通されて、神様の御元に召されました。息を引き取られるその瞬間まで、愛するご家族に囲まれて、とても凛々しい表情で眠りに就かれました。

8月の初め、入院なさったと伺って前任の牧師と一緒にお見舞いに行った時、その方は意識がないと言われている状態でしたが、前任牧師のお祈りの声に「アーメン」とはっきりお応えになりました。その翌日には意識が戻られたそうで、次にお見舞いに行った時には少しの時間でしたが、お話しすることができました。とても優しい笑顔で、小さなひ孫さんに手を振ってあやしておられた穏やかな姿が、今も目に浮かんできます。

病気との闘いの中、教会に集うことはなかなか叶いませんでしたが、最後まで神様がその方と一緒にいられて、その心も体も丸ごと抱きしめて支えておられたことを、ひしひしと感じました。

今日ご一緒にお読みしているエフェソの信徒への手紙の言葉も、まさに私たちを抱きしめて覆ってくださる、この神様の愛を伝えている箇所です。この手紙を書いた使徒パウロは、今日の言葉の最初に御父、つまり父なる神様から、天の上と地上のすべての家族が名前を与えられている、

と宣言しています。

ここで「家族」と訳されている元の言葉は、私たちがイメージする家族よりももっと広い範囲のつながりを意味する言葉です。

どんな場所で、どんな民族として生まれた人も。どんな家柄の、どんな身分の、どんな立場の人も。天と地にあるもの、神様によって造られたすべての人が誰も例外なく、神様から名前を与えられている。そうパウロは言っているんです。

それは、すべての人が神様からそれぞれの名前を呼ばれて、存在を認められて、「あなたは他の誰にも代えられない」と尊重されて大切に思われているということです。

私たち人間はみんな、ありとあらゆる違いを超えて、同じ神様に愛されている家族なんだ、とパウロは訴えているんです。異邦人たち、ユダヤ人のパウロから見れば、民族も文化も価値観も生活の環境も、ありとあらゆるものが違う人たちに、パウロは神様の愛と救いを伝え続けていました。この手紙の宛先になっているエフェソの教会の人たちも、パウロにとっては異邦人たちです。

同じ新約聖書の使徒言行録には、パウロや他の使徒たちが異邦人たちとのいろんな違いに苦戦しながら、それでもイエス様の出来事を救いの良い知らせ、福音として伝えていった様子が描かれています。

神様の独り子がイエスという一人のユダヤ人としてお生れになって、ユダヤ人だけじゃなくすべての人を罪から解放するために十字架で死なれて復活されたこと。イエス様の死と復活の出来事によって、すべての人が神様ともお互いとも一

緒に生きられるようになったこと。イエス・キリストを通してすべての人に、神の国を生きる永遠の命が差し出されていること。

パウロや他の使徒たちが語り伝えた、この救いの出来事が、民族も家柄も身分も立場もすべてを超えて、すべての人を神様のもとで家族として結び合わせている、というのです。

だから、こういうわけで私はひざまづいて神様をほめたたえ、礼拝して、愛するあなたたち家族のために祈ります、と言ってパウロは祈り始めます。

#### <私たちが覆う神の愛>

ここでパウロが祈っていること。

それはまずこの手紙を読む人たちが、神様の愛を自分たちの生活の基礎にして生きることでした。私たちの父である神様が、聖霊によって、神様の力で、あなたたちの内なる人を強めてくださいますように。そうパウロは祈ります。

「内なる人」とパウロが表現する私たち人間の心はいつだって、いろんな思いが戦い続けている場所です。善い人になりたい、正しくありたいという思いと、自分の好きなようにしたい、自分を満足させたい、という気持ちが戦うこともあるでしょう。

いくつもある選択肢のどれを選んだらいいのか、と悩むときもあります。

誰かを喜ばせたい思いと、自分を守りたい思いがぶつかり合って、どうにも動けなくなる時だってあるものです。戦っているなら、まだいいのかもしれない。もっともらしい理屈や言い訳をつけて、自分に優しく他人に厳しく「内なる人」を育

て上げるのも、私たち人間の得意技です。

そのままではどうしても、神様もお互いも、結局は自分自身さえも大切にして生きられない。

そんな私たちの「内なる人」を、私たち自身や他の何かや誰かじゃなくて、聖霊が、神様の力こそが強くしてくださる、とパウロは信頼して祈ります。

この信頼に応じて、神様がわたしたちの心にイエス・キリストを住まわせてくださる、とパウロは確信しているんです。

「住まわれる」というんですから、イエス様は私たちの都合にあわせて出たり入ったりされるんじゃないありません。こうやって教会に来て、神様を礼拝している時だけじゃなくて。

ここからそれぞれの生活の場所に戻った後も、イエス様が私たちの心に住んでおられて、私たちと一緒に、私たちの日常を生きてくださる。

私たち自身の思いや力や葛藤を超えて、イエス様が私たちの生き方の道しるべになってくださる。その時に初めて私たちは、神様の愛に根を下ろして、神様の愛を土台にして、神様とお互いを愛して生きられるようになるんだ、とパウロは知っていました。

だから彼は愛する「家族」のために、そう、この手紙を読むすべての人のために、聖霊の働きを求めて祈ります。神様が、あなたたちの内なる人を強くしてくださるように。

信仰によってあなたたちの心にイエス様を住まわせて、あなたたちを愛に根ざし、愛にしっかり立つ者としてくださるように、と。

そして、パウロは続けてこう祈っています。

あなたたちがイエス・キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さを知って、小さな人間の思いをはるかに超えるその愛を実感することができるように。神様の満ちあふれる豊かさで、あなたたちが完全に満たされるように。

そうパウロは祈るんです。

ところで、イエス様の愛の広さと長さで高さで深さで、一体どのぐらいなんでしょうね？

このパウロの表現を聞くと私はいつも、ある子どもも賛美歌を思い出します。

「両手いっぱい愛」という、新聖歌にも載っている賛美歌です。ちょっと歌詞を読ませていただきますね。

♪ある日イエスさまに聞いてみたんだ

どれくらいぼくを愛してるの？

これくらいかな？これくらいかな？

イエスさまは黙ってほほえんでる。

もう一度イエスさまに聞いてみたんだ

どれくらいぼくを愛してるの？

これくらいかな？これくらいかな？

イエスさまは優しくほほえんでる。

ある日イエスさまは答えてくれた

静かに両手を広げて その手のひらに

釘を打たれて 十字架にかかってくださった。

それはぼくの罪のため

ごめんね ありがとう イエスさま。

それはぼくの罪のため

ごめんね ありがとう イエスさま。

ごめんね ありがとう イエスさま。 ♪

この子ども賛美歌が歌っているとおり、イエスさまの愛は私たちの罪を丸ごと抱えてくださったほどの広さと長さで高さで深さです。

すべての人の罪を丸ごと抱えて、その手のひらに釘を打たれて十字架にかかってくださったほどの、広さと長さで高さで深さです。

そしてすべての人の命を丸ごと抱えて、死からよみがえってくださったほどの広さと長さで高さで深さです。

それはまさにパウロが言っているとおり、人の思いをはるかに超える、果てしない広さと長さで高さで深さの愛です。

イエスさまを通して神様がくださったこの愛に、私たちはみんなすっぽりと覆われているんです。新約聖書だけじゃなくて旧約聖書も、私たちに覆う神様の愛を証言しています。

例えば、旧約聖書の詩篇139篇はこう歌っています。

「主よ、あなたはわたしを究め、わたしを知っておられる。」

「前からも後ろからもわたしを囲み、御手をわたしの上に置いていてくださる。」

「あなたの御計らいは、わたしにとっていかに貴いことか。数えようとしても砂の粒よりも多く、その果てを極めたと思ってもわたしはなお、あなたの中にいる。」

<私たちのうちに働く愛>

私たち一人一人を知り尽くして、その全部を包み込んで抱きしめて丸ごと覆ってくださる神様の愛が、今やイエス様を通して私たちすべての人に与えられています。

神様を信じて頼る一人一人の心のうちに、聖霊に

よって、神様の力で、イエス様が住んでいてくださいます。そうは言っても、イエス様が住んでくださる肝心の私たちは、みんなもろくてごつごつした土の器、完璧にはほど遠い者です。

イエス様が語りかけてくださったって、反抗して耳をふさいで知らんぷりしたくなる時だってあるでしょう。日常のいろんな出来事で心がいっぱいになって、確かに知っていたはずの神様の愛を見失ってしまう時もあるでしょう。それでも。

私たちのうちに住んでくださるイエス様の愛の広さ、長さ、高さ、深さは、私たちの罪も弱さも限界もはるかに超えて、神様の満ちあふれる豊かさで私たちを満たしてくださいませ。

「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方」

そうパウロが告白して祈りを献げている御方が、私たちの主なる神様です。教会がイエス・キリストによって、この神様の栄光をいつもどんな時もあらわすことができるように。

そう祈り求めて、パウロは今日の祈りを締めくくっています。

私たち一人一人はもろい土の器でも、一つ一つの教会は小さくて弱い群れだとしても、私たちのうちに住まわれるイエス様は、私たちのすべてを神様の愛で丸ごと覆ってくださいませ。

私たちの内に住まわれるイエス様の姿を、言葉を、行動を、暗闇の中の灯火、一步一步の目印にして進むなら。

その歩はどんなに小さくても、ヨタヨタとして頼りなくても、神様の満ちあふれる豊かさに満たされた一歩です。

この体の命を生き終えるその日まで、いえ、死を超えてその先まで、神様が私たち一人一人と一緒にいてくださって、私たちを丸ごと抱きしめておられます。

「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方」、神様の愛は、私たちの内に住まわれるイエス様によって、必ず実現されます。パウロの祈りに合わせて、今日、私たちも一緒に祈りましょう。

今ここに呼び集められた一人一人を通して、これからここに招かれる一人一人を通して、神様の愛と栄光がいつも、どんな時も、人生の最後の瞬間まで、限りなく現わされますように。

お祈りいたします。